

写

8 消安第 2833 号

8 農産第 2051 号

令和 8 年 8 月 5 日

各地方農政局消費・安全部長、生産部長 } 殿
内閣府沖縄総合事務局農林水産部長
(ほか北海道宛て同趣旨の通知を发出)

消費・安全局植物防疫課長
農産局果樹・茶グループ長

令和 8 年夏期以降における果樹カメムシ類の防除の徹底について

果樹カメムシ類の果樹園への飛来は、越冬世代成虫（前年に生まれた親世代）が中心となる前期（主に 5～7 月）と当年世代（その年に生まれた子世代）の新成虫が中心となる後期（主に 8 月以降）とに分けられます。本年の果樹カメムシ類の発生状況について、越冬量が複数の県において平年より多い状況であったことや、春先から全国的に気温が高く推移したこともあり、前期では、西日本を中心に越冬世代成虫の園地への飛来が平年より多く認められました。

後期における当年世代の発生量は、一般的に、越冬世代の個体数及び餌となるスギやヒノキの球果の結実量に左右されます（下図参照）。球果が豊富な場合は当年世代の発生量が多くなり、果樹園地への飛来量が増加するリスクが高くなります。球果の結実量が少ない場合は、球果が早期に枯渇しやすくなるため、果樹園地への飛来時期の早期化に注意が必要です。また、越冬世代の個体数が多く気温が高い場合、当年世代の増殖は速くなり、活動も活発化しやすいため、飛来量が更に増加するおそれがあります。

気象庁の 3 か月予報（7 月 21 日付け）によれば、向こう 3 か月（8 月から 10 月まで）の気温は、北日本、東日本及び西日本で平年並か高く、沖縄・奄美において高い見込みとなっております。また、7 月 31 日までの都道府県の現況を取りまとめたところ、21 府県で発生量が「やや多い～多い」と報告されているほか、一部の県では当年世代の発生が例年より早く確認されており、活動が活発な傾向にあります。そのため、越冬世代の個体数及びスギやヒノキの球果の結実量のバランスによっては、果樹園への大量飛来や早期飛来が懸念されます。

つきましては、本年 8 月以降の果樹カメムシ類による被害の軽減を図るため、農業者による発生状況の的確な把握及び適期防除が確実に実施されるよう、別紙の防除対策の重点指導等について貴職から管内県に対して通知願います。

		スギ・ヒノキ球果の結実量	
		少	多
越冬世代成虫	少	当年世代の飛来量少	当年世代の発生量増加のおそれ ／当年世代の飛来量増加のおそれ （球果で増殖、球果の消耗後に園地飛来※） ※場合によっては越冬量、翌年前期の飛来増加
	多	当年世代の早期飛来のおそれ （球果の消耗が早いため）	当年世代の大量飛来のおそれ （球果を利用し 増殖 、球果消耗後に園地飛来）

図 当年世代の飛来リスクに係る越冬世代成虫とスギ・ヒノキ球果の結実量の関係

※ 外山晶敏（2014）「果樹カメムシ類の発生生態と防除対策」（植物防疫 68 巻 7 号，389-393 頁）を基に作成

「令和 8 年の農業生産における果樹カメムシ類の防除の徹底について」（令和 8 年 5 月 25 日付け 8 消安第 1294 号及び 8 農産第 925 号農林水産省消費・安全局植物防疫課長・農産局果樹・茶グループ長連名通知）に示す情報収集・発信の強化や基本的防除対策等の徹底を図るとともに、当年世代の防除及び被害の軽減を確実なものとするよう、以下の防除対策についてはより重点的に指導すること。

1 予防に関する措置の実施

- (1) なし、ぶどう、かき等の有袋栽培において、まだ袋かけがおこなわれていない場合には速やかに袋かけを行うこと。ただし、袋掛け後も果実が肥大して袋に密着すると吸汁される場合があるので注意すること。
- (2) 既設の防虫ネット又は多目的防災網に破れや隙間がないか改めて念入りに点検を行い、破損がある場合は速やかに補修を行うこと。

2 発生状況等の把握

- (1) 近隣の都道府県の発生予察情報等も参考にしつつ、園地の観察を徹底し、果樹カメムシ類の飛来及び被害の早期発見に努めること。発生時期及び発生量は地域、果樹園の立地条件、樹種等により異なることから、一部の樹だけではなく園地全体を観察すること。また、地域内で飛来情報を共有し、防除効果の向上を図るため、可能な限り地域一斉の防除を実施すること。
- (2) スギ林やヒノキ林等の山林に隣接している園地では、果樹カメムシ類による被害が多い傾向があることから、前期の飛来実態に鑑みて、特に飛来状況に注意すること。
- (3) 台風は、強風により果樹カメムシ類を山林から強制的に離脱させたり、スギ・ヒノキの球果の脱落や倒木を引き起こして餌不足を招いたりするなど、結果的に果樹園への飛来を増加させる可能性がある。このことから、台風の通過後は、特に園内の観察をきめ細かく行うこと。

3 薬剤による早期防除

- (1) 果樹カメムシ類は、集合フェロモンの放出により園地周辺の個体が集まる傾向があることから、園地への飛来が認められた場合は、飛来初期から速やかに薬剤散布を実施すること。なお、風が弱い薄暮期や夜間に気温が高い場合には、果樹カメムシ類が活発に活動するため、夕方に薬剤散布を行うこと。
- (2) 果樹カメムシ類の発生量を考慮し、多発条件下では、残効性の長い薬剤を選択すること。なお、薬剤散布後も園内を観察し、再度飛来を確認した場合は既散布薬剤の残効を踏まえながら必要に応じて異なる系統の薬剤にて追加防除を行うこと。ただし、収穫時期が近い園地においては、農薬の使用回数や使用時期（収穫前日数）等に留意すること。